

マルチフローラ ペチュニア ロウライダー・シリーズ

学名: *P. x hybrid*

種子粒数の目安: 約1,200粒(ペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は中庸(0.75mmhos/cm(1:2))とする

播種

覆土はしない。播種後は、ペレットを完全に融解させるため十分に水を含ませる

ステージ 1 - 発芽には約4日を要する

地温: 22 から 24°C

光条件: 光があった方がよい

水分: ステージ 1 では、最適な発芽条件のために水分レベルを湿潤(level 5)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 100%で維持

ステージ 2

地温: 20 から 24°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 根が培地を十分に浸透するよう、少しずつ水分を減らしてやや湿潤の状態(level 4)を維持する

肥料: リン酸割合の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm 以下(N)、EC は 0.7mS/cm 以下)で開始する

ステージ 3

地温: 18 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)の状態におく。湿潤と乾燥、つまり level 4 と 2 を循環的に繰り返すようにする

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC は 0.7-1.2mS/cm)に上げる。もし生育が遅いようであれば、2回に一度の間隔でアンモニア態と硝酸態のバランスのとれた肥料を与える。いずれの場合も、培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は(1.0 から 1.5mS/cm(1:2))を維持する

PIG(矮化剤):

プラグ苗の生長制御については、まずは環境条件や肥培やかん水などの管理による方法をとり、化学的な矮化処理剤を用いるのは、必要に応じて後の手段とすることが望ましい。アンモニア態窒素の利用を最小限にすることで、苗の徒長を避けることが可能である。また DIF(昼間と夜間の温度差)の利用によって丈の伸張を抑制することも可能である。矮化剤を使用する場合は、事前に試験を行うようにする

ロウライダー・シリーズへの矮化剤処理は、従来のペチュニアへと同じような処理方法が可能です

北ヨーロッパ仕様: B-ナイン 1,250ppm を必要に応じて 1 から 3 回(3 回を限度とする)ほど散布する試験を行った結果、効果が確認された

ステージ4

地温: 16 から 18°C

光条件: 温度条件が適当に管理されていれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

カットパック/9cm ポット: 1 本植え

10 - 10.5cm ポット: 1 本植え

25cm(バスケット等): 3 から 4 本植え

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.5 から 6.2 として、培地の初期の養分量は中庸とする

温度

昼間温度: 16 から 24°C

夜間温度: 14 から 18°C

ロウライダーは、低温の条件でも概ね 2°C くらいまでは耐寒性があります。ただし同じ日長条件であれば、到花期間の早晩は生産時の温度の平均値に影響を受けず(低温条件では開花が遅れる)。つまりロウライダーは、低温の条件では開花までより時間を要するということです。

光条件

温度が適正に維持されている間は、できるだけ高く維持する

肥料

かん水と交互に、リン酸割合が低い硝酸態の肥料をレート 3 の濃度(175 から 225ppm(N)、EC が 1.2 から 1.5 mS/cm)で与えます。株に多少勢いをつけたい場合は、必要に応じて、リン酸の少ないアンモニア態と硝酸態が組み合わせた(バランス配分をした)肥料を与えます。その際も、用土(培地)の pH は 5.8 から 6.2 に範囲に維持します

レート 3 ではなく、レート 2(100 から 175ppm(N)、EC が 0.7 から 1.2 mS/cm)の薄い濃度の肥料を多頻度で与える方法も可能です。その場合も、上記の EC、および pH が適正な範囲にあることを確認しましょう

矮化処理剤

ロウライダーは遺伝的にもともとコンパクトなペチュニアなので、苗を移植した後ほとんど矮化剤は不要と考えてよいでしょう。矮化剤の処理試験の結果においては、移植後 7 日目をめどに B-ナイン 2,500ppm を 1 から 3 回(3 回を上限とする)散布することで効果が確認されています。また通常のマルチフローラ品種に用いる矮化剤の、半分の濃度を与える方法も可能です。生産条件によっては、矮化剤が必要としない場合もあります

※ 矮化剤の使用に際しては、実際に使用する前に、事前試験をとおして最適な濃度や倍率を決めることが望ましい

日長時間との関係

ロウライダー・シリーズは、従来のペチュニア(たとえば、ドリームズ・シリーズ)などと同様に、約 10 時間の日長条件でしっかりと開花することが確認されています。これよりも長日の条件であれば、開花は少し早まります

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 4 から 6 週

移植から出荷適期まで: 5 から 7 週

播種から出荷まで

コンテナ サイズ	定植本数 /ポット	春出荷	初夏出荷
カットパック/ 9cm ポット	1 株	9-11 週	8-10 週
25cm コンテナ・ バスケット	3-4 株	10-13 週	8-11 週

予想される病例、虫害等

適正な管理のもと、いわゆる IPM(総合的病虫害管理)が行なわれているのであれば、病気や虫害によるとくに大きな問題は発生しないと考えられる

ホームガーデナーへのアドバイス

- ロウライダーは、単品でもまたミックスコンテナの素材としてもとても使いやすいペチュニアです
- 日あたりのよい場所に植え込み、または配置しましょう
- 丈は 17 から 25cm、株幅は 20 から 30cm でよくまとまります
- 植え込む際の間隔は 15 から 20cm とする

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。